



スーパー グローバル ハイスクール

# 佐高 SGH通信 2017

No. 18 (平成29年7月20日発行)

佐高 インスパイア ファイル

## 高大連携 海の日 **INSPIRE** 2017 in 東京海洋大学



佐野海洋大チームの発表



リハーサル



質疑応答

2017年7月17日(海の日)、東京海洋大学で「高大連携 海の日 **INSPIRE 2017**」が開催されました。**INSPIRE 2017** は、今、日本国内で起きている「**グローバル化**」と向き合い、問題解決に向けた提言を行うワークショップです。以下の高校4校と東京海洋大学 海外探検隊がコラボし、高校生と大学生が1つのチームとなって、問題解決に取り組みました。本校からは、相田真沙樹君(3-3)、岩永光喜君(3-4)、新井康平君(1-1)の3名が参加しました。

プレゼンター：高校生12名(3名×4校)、大学生8名(2名×4チーム)

- ・私立文京学院大学女子高等学校 (SSH校 / SGHアソシエイト校) → 文京学院・海洋大チーム
- ・千葉県立流山おおたかの森高等学校 (ユネスコスクール) → 流山おおたかの森・海洋大チーム
- ・千葉県立市川昂高等学校 (ユネスコスクール) → 市川昂・海洋大チーム
- ・栃木県立佐野高等学校 (SGH校) → 佐野・海洋大チーム

オブザーバー：高校生約10名、大学生60名、その他10名

合計約100名

**概要**：今回取り組む課題は、「**日本の外国人労働力を考える**」でした。日本には、「外国人技能実習制度」があります。国際貢献のため、開発途上国等の外国人を日本で一定期間(最長5年間)に限り受け入れています。違法に低賃金で労働させる事例もあり、外国人実習生の失踪が年々増加しています。どうすれば失踪を減らすことができるか、4チームがそれぞれ指定された業種で**具体的な解決策**を提案しました。各チームは約2ヶ月かけて準備してきました。

**発表**：各チームは15分間のプレゼン(寸劇等)、15分間の質疑応答を行います。

**評価**：参加者全員が、プレゼンと質疑応答を評価し、最も説得力があったチームに一人一票を投じます。

各チームのプレゼンのタイトル等（当日配付資料およびプレゼンより）

チーム	業種	プレゼンタイトル
文京学院・海洋大	事業後継者に悩む茨城県にある <u>養鶏場</u>	ドメスティックからグローバルへと視野が広がった瞬間
流山おおたかの森・海洋大	東京オリンピックに向けて臨海部の競技施設建築を担当する東京の <u>土木建築下請け会社</u>	東京五輪に向けた建設業と外国人労働者
市川昂・海洋大	新規人材育成に悩む千葉県にある老舗の <u>かまぼこ工場</u>	千葉からベトナムへ、人材の架け橋となった外国人技能実習生 ～社長とかまぼこ交換日記～
佐野・海洋大	新しい魚種の養殖に挑戦したいと考えている神奈川県にある小規模 <u>養殖業者</u>	小さな養殖と大きな希望 （登場人物） ①養殖業者の取締役（大学生：津田君）、 ②日本人社員（大学生：佐伯さん）、 ③日本人社員 兼 ベトナムの大学院生(岩永君)、 ④ベトナム人実習生 アイン 兼 ベトナム料理店オーナー（相田君）、 ⑤ベトナム人実習生 コン（新井君）



佐野・海洋大チーム



チームプレゼンの様子（寸劇をしています）

→・投票の結果、優勝は「市川昂・海洋大チーム」でした（実に素晴らしい発表でした）。「佐野・海洋大チーム」は質疑応答で佐高生が果敢に答えていたことが高く評価され、敢闘賞をいただきました。

- 普段生活しているだけでは得られない深い知識と充実感を得ることができました。結果は敢闘賞でしたが、全力で発表できたので悔いはありません。大学生ともうまくコミュニケーションでき、チームで課題を解決するということを実感できました。とても有意義な一日でした（岩永君）
- 今回のワークショップを通じて、東京海洋大学の学生の見識の高さを感じました。物事のとらえ方など、今後の研究のよき手本となりました。（相田君）
- 大学生の先輩方からたくさんのお話を学ぶことができました。「外国人実習生」という一つのテーマにも、様々な解決策があることを知ることができました。この経験をこれから行う課題研究に生かしたいです。（新井君）



プレゼンを行った4校の高校生と大学生および関係者